



生徒の皆さんへ

3年生が自宅学習期間に入り、学び舎を巣立つ時期も近づいてきました。ここ沖永良部でも肌寒い季節ですが、春の訪れを感じる時期でもあります。3年生の旅立ちの春をみんなで祝い、沖高生の誇りをしっかりと受け継いでいきましょう。

姜尚中(カンサンジュ)著『悩む力』に学ぶ

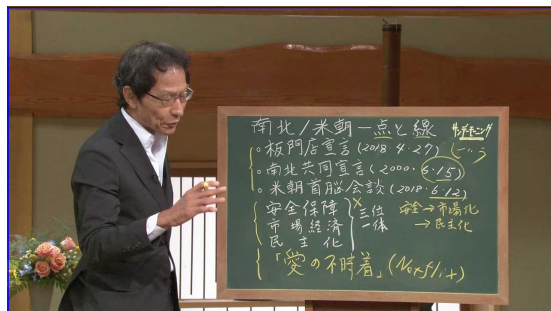
「悩む人間」は運の悪い不幸な人間なのか

若いときは、答えのない問いに悩んでしまいがちである。それは、結局、若いからこそ、そうなるのだと思う、ものごとを達観した大人にはあまり見られないことかもしれない。青春とは知りたいという心の渴望のようなものにしがたって無垢なまでにもものごとの意味を問うことだと思う。そこには、挫折や悲劇の種がまかれていることもある。未熟がゆえに疑問を処理することができずに、足元をすくわれることもある。危険なところに落ち込んでしまうことさえある。でも、それが青春というものだと思う。

青春というのは子供から大人へ変わっていく時期であり、険峻な谷間の上に置かれた丸太を「綱渡り」よろしく渡っていくようなものではないだろうか。一歩間違えば谷底へ転落してしまう危うい時期である。その一方で、今、そのような苦悩とは無縁の青春を送っている若者がたくさんいることも確かである。「私」とか「自我」といったものについてあまり詮索したがない人たちのことである。それはある意味で賢い生き方でもあって、自我の暗がりを探ったりせず、誰に対しても深入りしないというわべだけの人間関係で済ませている。エリートといわれるソウル大学の学生もそうであったように、余計なことを考えている暇があったらスキルを身につけ、専門知識を得て、高給を取れる人間になるかもしれない。

しかし、その代わりに、青春時代だからこそ心の内側から湧き出てくるひたむきなものを置き忘れていくことにならないだろうか。私は青春のころから自分への問いかけを続けてきて「結局、解は見つからない」とわかった。と言うより、「解は見つからないけれども、自分が行けるとこまで行くしかないのだ」という解が見つかった。そして、気が楽になった。何が何だかわからなくても、行けるとこまで行くしかない。いまでも相変わらずそう思っている。

氷の上を滑るようにものごとの表面を滑っていたら、結局、豊かなものは何も得られないと思う。青春は、挫折があるからいいのだし、失敗があるからいいのである。悩む人間は、決して運が悪いのでもなく、不幸な人間でもない。年齢を重ねてもどこかで青春の香りを失わずにいたい。



TBSサンデーモーニングに出演中の姜尚中さん

映画『ペイ・フォワード possibleの王国』から

両親のアルコール中毒，暴力，困窮に喘ぐ家庭に育つトレヴァー少年は，中1の新学期に社会科の授業を受ける。そこで，担任であるシモネット先生から1年を通じて考える課題が出される。それは「世界をより良くする方法とは？そして自分にできることは？」というものであった。

皆思い思いの考えを述べるなか，トレヴァーの答えは「ペイ・フォワード」という親切の連鎖であった。「3人に親切をする。その3人は別の人に親切を渡す。そうすれば世界に親切の連鎖が広がるはずだ」というものだった。

さっそくトレヴァー自身，親切を実行していきませんが，幾度も壁にぶち当たりそうまくは行きませんでした。徐々に親切の輪が広まっていきます。そしてペイ・フォワードが町中に拡がり，ハッピーエンドにつながると思った矢先に，悲劇が起こります。何といじめっ子から友達を助けるために仲裁に入ったトレヴァーがナイフで刺されて亡くなってしまいます。亡くなったトレヴァーのもとに大勢の人が弔問に訪れます。それらは全員，ペイ・フォワードのおかげで救われた人々だったのです。一人の少年の考えが，数え切れない人々を幸せにしたという内容の映画です。

ペイ・フォワードの原題は「Pay it forward」です。「Pay back」からの連想で生まれた言葉で日本語に訳すと「次につなぐ」です。約20年ほど前に公開された映画ですが，日本でも「恩送り」のカタチで言い伝えられています。小さな変化が大きな変化となるバタフライ効果のように，私たちも「善意のバトン」を他の人に渡してあげられるような心がけをしたいものです。そうすれば，世の中が少しでも明るくなってくるはずです。



今日から

「そのうち」を「今のうち」に。「いつか」を「今日から」に。

一度きりの人生、時間は有限だ。

「そのうち」やればいいと思うことは、今のうちのやっておく。

「いつか」始めればいいと思うことは、「今日から」始める。

「今のうち」「今日から」を合言葉にして、君の夢を叶えよう。

3年生の保護者の皆様へ

自宅学習期間，そして，国公立大学・私立大学等の入試時期に入り，いよいよお子様の高校生活も佳境には入って参りました。私も，この3年生と3年間共に沖高で過ごしました。私の教員生活も今年の3月で定年退職を迎え佳境に入ってきております。これまで3年間の学校運営への御理解御協力に感謝申し上げます。